

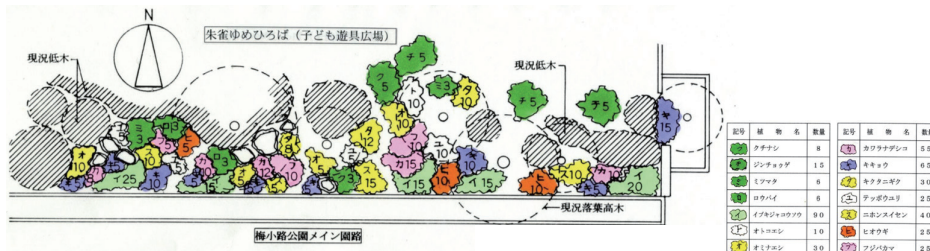
# 京都ゆかりの花と香りを広げる梅小路公園花壇

企画者 公益財団法人 京都市都市緑化協会

梅小路公園は、平安遷都 1200 年を記念して平成 7 (1995) 年に開園した都市公園です。平成 24 (2012) 年に京都水族館、平成 28 (2016) 年には京都鉄道博物館も開業し、たくさんのお客さまを迎えています。企画地は、約 13.7ha ある広い公園内のメイン通り沿いの一画です。来園者に「香りのする季節の花に触れ、ほっとしていただきたい」また、「京都の生活文化と切り離せない“和の花”を知っていただきたい」と考え、企画しました。

## 植栽計画

既存のイロハモミジなどの間に、企画した香りの樹木 4 種と草花 10 種を自然風に植栽。京都ゆかりの「和の花」が育つ環境をつくり、四季の花が楽しめる、ほっと和める計画にしました。



京都府京都市



## こんな草花を使いました



**フジバカマ (藤袴) キク科**  
源氏物語にも登場する秋の七草の一つ。一般に流通するのは別種。葉は香料となり、防虫剤、入浴剤としても使いました



**ミツマタ (三椏) ジンチョウゲ科**  
花はさわやかな香りがします。和紙の原料となり、とくに明治以降は紙幣に使われています



**ヒオウギ (檜扇) アヤメ科**  
祇園祭に合わせるように咲き、厄除け・魔除けとして街で飾られます。種子は漆黒で「ぬばたま」と呼ばれ「黒」「夜」などの枕詞にも



**オミナエシ (女郎花) スイカズラ科**  
秋の七草の一つで盆花に使われます。花の香りは良くはありませんが、生薬となります



**キクタニギク (菊溪菊) キク科**  
京都東山から流れ出る菊溪の水辺に咲いていたと伝わります。わかばに清々しい芳香があり、晩秋に明るい小さな花を次々と咲かせます

## 香りをきっかけに 京都の生活文化と植物とのかかわりを伝えたい



オミナエシ、フジバカマ、キキョウなどが咲く夏の花壇 (2018年8月)

私たちは京都の生活文化に密接に関係がある山野草などを「和の花」と呼び、普及に取り組んできました。受賞を機に、植栽整備とあわせて「和の花」説明パネルを設置したところ、来園者の方が香りや植物について話している姿を見かけるようになりました。今後も、生活文化（祭礼、地名、香り・薬用などの利用）と植物のかかわりを身近に感じていただけるような取り組みを続け、伝えていきたい。



京都ゆかりの花と香りを紹介するパネル